(平成19年第1号)

社団法人 日本山岳会 北九州支部 Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club 発 行: 社団法人日本山岳会北九州支部 事務局:北九州市門司区新原町12-27

関口興洋方

TEL·FAX 自宅 093-382-6436 携帯 090-8919-6776

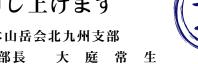
発行人:大庭常生

編集人:関口興洋・伊藤久次郎



2007 年頭にあたって

謹んで新年のご挨拶を申し上げます



日本山岳会北九州支部 支部長

日本山岳会北九州支部の皆様、明けましておめ でとうございます。

皆様には、新しい抱負を胸に元気良く2007年 の第一歩を踏み出されたことと思います。今年は、 早速2月3日、4日に日本山岳会九州地区5支部懇 談会を当北九州支部の主催で開催致します。すで に、役員会を中心に準備を進めておりますが、九 州の仲間の皆さんに充分満足していただく行事に なるよう、会員の皆さんの力強いご支援をお願い いたします。

北九州支部としましても冬山トレーニングを初 め、月例山行も計画されております。山仲間とし

て親交を深めるためにも皆さんの参加をお待ちして おります。

その他にも山の自然保護活動や地域での登山教室 などの取り組みや、会員相互の登山技術のレベルア ップを目的にした行事も計画して参りますので、周 りの会員の皆さんと声を掛け合って、出来れば会員 が何かの行事に参加する年にしようではありませんか。

終わりになりますが、皆さんの今年の山行が有意 義で楽しいものとなりますよう祈念してご挨拶と致 します。

2007年元旦

九州5支部懇談会を開催決定 2月3日(土)~4日(日) 支部会員の総力をあげて取り組み

3年前の宮崎での懇談会以来中断している九州五支部 懇談会を、来年 (平成 19 年) は北九州支部主管にて開催し て欲しいとの福岡支部からの要請があり、急遽役員三役で 検討し、五支部との開催スケジュールを打ち合わせた結果、 次のおとり開催が決定した。なお、九州五支部懇談会を当 支部で開催するのは初めてであり、支部会員の総力を挙げ て取り組む必要があるので積極的な参加をお願いしたい。

九州 5 支部懇談会の案内

- 日程 平成19年2月3日(土)~4日(日)
- 場所 九州厚生年金会館(ウェルシティ小倉) 北九州市小倉北区大手町12-3 1至1093-592-5401
- 3 内容及び予定
 - 2月3日(土) 受付開始 14:00より2 Fロビーにて
 - (1) 懇談会 (15:00~17:00) 2F「雅」の間
 - ① 支部の現状報告
 - ② 公益法人化に対する支部としての取り組み方
 - ③ 会員の高齢化に対する対策(若手会員の勧誘対策)
 - (2) 懇親会 (18:00~20:00) 2 F「錦」の間

○ 2月4日(日) 記念山行(国定公園カルスト台地 の平尾台~中央分水嶺の貫山〔712㎡〕) 希望者のみ実施

> 行程の概要 宿舎発8:00~平尾台観察センタ - 9:00~9:30 ~ 貫山 11:00~12 :00 (昼食) 小倉駅着 14:00

- 参加費
- (1) 2月3日の行事(懇親会まで)のみ参加の場合

5,500円

(2) 2月3日の行事参加と宿泊する場合

13,000円

- (3) 2月3日の行事参加と宿泊、4日の記念山行に <u>15,000円(</u>弁当代含む) 参加する場合
- 4 申込み期日:平成19年1月25日(木)
- 5 申 込 先:事務局 関口興洋

TEL/FAX : 093 - 382 - 6436

又はEメール (sekikoyo@sage.ocn.ne.jp)

※ なお、本部から平林副会長が当懇談会に出席される ことになりました。

平成18年度忘年パーティ開催

☆☆ミニ講演(九州百名山踏破)と美人歌手ライブで華やぐ☆☆

(事務局 No.13643 関 口 興 洋)



美人歌手"時輪ゆみ"さんをまじえての忘年パーティ

平成 18年12月9日 (土)、小倉リー セントホテルにて平成18年度・忘年 パーテイを開催。大庭支部長以下男性 会員28名、女性会員17名計45名の もでかけて国際交流に尽力されてい 参加で大いに賑わった。

開宴に先立ち、今年、九州百名山 の登頂を達成した山田武史会員より ミニ講演をして頂いた。その中で、 宮崎県の山行で落とした財布が無事 自宅に届けられた話は、実に清々し い話であった。

秦野前支部長の乾杯の音頭で宴に入 る。あまりアルコールがまわらないう ちに新入会員3人(高田 孝一、丹下 香代子、伊藤 トモエ) の紹介が行わ れた。

あちこちの円卓で盛り上がる頃合を みて、大楠副支部長より今宵のエンタ ーテイナーである"時輪ゆみさん"の

紹介があり、俄然華やいだ雰囲気と なる。北九州で活躍されている歌手 だが、アメリカ、韓国、中国などに る由。持ち歌披露のあと、デユエッ トの曲が始まると男性陣が入れ替わ り立ち代り、とたんに賑やかになる。

歌う時輪ゆみざん

最後は全員で 『坊ガつる讃歌』 を歌って締める。

日本酒、焼酎 の差し入れもた っぷり、また信 濃支部より頂い た安曇野のリン ゴの賞味もでき 甘辛両党にとり、 楽しい宴会とな った。某会員よ

り「JAC」とは「JAPANESE ALCOHOL CLUB」ですねといわれたごとく、 山も好きだが、同時に飲むのが好き



ゆみさんとデュエットする高畠会員

な連中がなんと多いことか・・・ それぞれ平成18年を振り返り、 また来年の新たな山行に思いを馳せ て解散。

(男性) 秦野一彦 忘年パーテイ参加者(氏名のみ) 大庭常生 日向祥剛 井上 佑 篠田勝行 溝部忠增 大楠益弘 板倉健一 伊藤久次郎 浦田和夫 馬場基介 磯野文雄 高畠拓生 末吉史忠 関口興洋 藤田 傳 西村俊二 太田 満 森永義忠 室津健次 中村昭彦 山田武史 内藤正美 丹下 洽 足立明夫 坂本勝喜 山下定治 高田孝一 (女性) 原 広美 西村信子 横山洋子 吉岡千津子 藤川美久子 高城季美子 三木靖子 大石そなえ 大木康子 坂本むつみ 八木國子 末次幸子 信田順美 坂本千佐子 森本信子 丹下香代子 伊藤トモエ 以上 計45人

平成18年度年次晩餐会 名古屋にて開催 地方の活性化が目的

(No.13499 伊藤 久次郎)



晩餐会会場で平山会長と記念撮影

昨年12月2日、今まで東京で開催されていた年次晩餐会が、東海支部の協力で今回初めて地方の名古屋で開催され、435名が出席した。会場である「ウェスティン ナゴヤ キャッスル」ホテルの前は、金のシャチホコで有名な名古屋城がどっかり。初の地方開催である今回の晩餐会は、支部員と会友合わせて80人ほどの協力を得て、約10カ月をかけたと東海支部員の話であった。

定刻になり、雄大なアルペンホルンの生演奏が響く会場の中のテーブルに向かった。目指したテーブルは、中央付近の「明神山」の名札が掲げられたテーブル。続いて「東海学園オーケストラ」(高校)による生演奏で雪山賛歌ほかブラームスの交響曲が会場一杯に響きわたった。

宴も進んだ頃、突然、東海支部が挑戦中の、ヒマラヤのローツェB C 5200 m地点との生中継が始まり、会場前面に掲げられた大きなスクリーンに、冬期ローツェ南壁登山隊の千田敦司隊員の顔が映し出され、会場内にどよめきと拍手が起こった。この交信を通じて会場から平山会長が激励のメッセージを送った。

今回の名古屋晩餐会で平山会長は、 地方で開催した狙いは、支部の活性化 などにあると挨拶で述べていた。

晚餐会参加者

吉村健児(3173) 日向祥剛(11427) 溝部忠増(11977) 大楠益弘(13465) 伊藤久次郎(13499) 高畠拓生(13541) 関口興洋(13643) 藤田 傳(13722) 西村一利(13811) 大石そなえ(14199) 小林富雄(14317) 計11人

年次晚餐会記念山行 **猿投山(629m)登山** (東海支部計画)

晩餐会の翌日12月3日、東海支部の計画で猿投山登山に参加、現在 東海支部が取り組んでいる猿投の森再 生活動の状況を見学することにした。

まだ眠気と酔いも覚めやらぬ午前 6時45分、バスで猿投山登山口へ 向かった。1時間15分程で登山口



晩餐会会場のすぐ前にある名古屋城

へ到着。コースの説明や準備体操のあと3班に分かれ登山開始。ゆっくりとしたペース。途中、東海支部会員による樹木や植物の説明が続き知識の豊富さには感心させられた。頂上には10時20分ごろ到着。

説明によると、その昔、地元瀬戸 は製鉄、製塩、窯業、採鉱などで室 町時代から何百年も栄えた。しかし これらの産業は、大量のエネルギー を必要としたため、近隣の山林は伐 採を繰り返し、江戸末期には、猿投 山は足尾銅山、滋賀の田上山と並ん で日本三大禿げ山となった。風化花 崗岩の禿げ山は土石流災害の元であ ることから、明治政府はオランダの 土木技術を導入し植生回復に努めた。 1世紀半後、禿げ山から回復したも のの熱源は薪から化石燃料となり、 森は放置され、現在荒廃に向かって いる現状である。そこで日本山岳会 東海支部がNPO活動として森を一部 借り受け環境林に変える取り組みを 始めたのである。

現在、地元には東海支部の小屋があり、テントや道具などが準備され、森林の不要な木を伐採したり、又植林したりして地道に活動を続けている猿投の森をこの目で見てきた。

猿投の森参加者 吉村健児 日向祥剛 伊藤久次郎 関口興洋 小林冨雄



日本百名山「恵那山(2191m)」登山顛末記

山は逃げない

No.13722 藤 田 傳



恵那山登山口にて

恵那山登山口に通じる黒井沢林道 が11月30日で通行止め。止む無く日本 武尊ゆかりの神坂峠(1569m) へ向かう。

峠は唐松の霧氷、雪空、−10°C、 富士見展望台 (1739m) から引き返す。

一雄大な恵那山麓へ一

恵那神社、ウエストン公園、更に 拡がる中山道、想像を絶する大絵巻、 中津川、南信濃は豊かな自然と歴史 と文化が薫る街、中津川は栗蔵のあ る栗キントン発祥の地でもある。

一美濃、木曽路、中仙道―

妻籠宿 (標高420m) 一下り谷一馬籠 峠 (標高801m) 一馬籠宿 (標高620m) 一 是より北木曽路の碑―石畳―落合宿 (標高330m) 一中津川宿 (標高324m)



妻籠宿にて

一いろんな出逢いの数々・・-

- 木曾義仲のかぶと観音
- 良寛歌碑・妻籠城跡
- 妻籠宿 (江戸から 42 番目の宿場)
- 男滝、女滝(吉川英治の「宮本武蔵」 の武蔵とお通のロマンスの舞台)
- 馬籠峠(中仙道の難所」の一つ、 妻籠宿と馬籠宿の境、正岡子規の「白

雲や青葉若葉の30里」の句碑が道標を兼ねる)

- 馬籠宿 (木曾11宿の最南端、美 濃 との国境、江戸から43番目の宿場)
- 芭蕉の句碑
- 是より北木曽路の碑(岐阜県境、 藤村の揮毫したもの)
- 落合宿・中津川宿(江戸時代には 中仙道の宿場として賑わった街で古 くから商業活動が盛んで町並みは 1,100m、旅籠屋は29軒あったと云う)

(参加者) 伊藤久次郎、高畠拓生、 関口興洋、小林冨男、藤田 傳

大変お世話になり意義深い日々に感謝。 限られた人生、一度はじっくりわらじ旅。 (2006.12.1)



中津川駅付近から見える恵那山

9月 月例山行報告 九重坊ガつるキャンプ 2006/9・23-24

立中山(1468m)—鳴子山(1643m)—白口岳(1700m)

北九356 坂 本 勝 喜

台風13号が過ぎ去った頃は、こんな上天気になるとはとても思えなかった。予報は両日とも雨、あるいは曇りだった。それが前日になると降水確率が0%になった。これはいい、キャンプには最適だ。星空が見られるだろう、と期待した。

集合はJA飯田高原。場所を間違えた人がいて、予定の午前10時を少し過ぎて顔ぶれが揃う。日向さんの山小屋がある場所に移動。ここで共同装備の分配をする。私は牛肉2パックとバーナー5個をザックに入れる。エキスパートほど重量が増えたはず。

村上さんも合流して吉部の登山口を 11時20分に出発。ショートカットの 道を行く。林道に出たところで昼食。 重いザックを背負って歩く。じわじ わと肩にザックのストラップが食い 込んでくる。幸い、今回下ろし立て の登山靴の感触はいい。坊がつるに 入ると渓流というか小川というか流 れの側で憩う人たちがいる。その水 の澄んでいること。底までくっきり。

13時20分坊がつるキャンプ場に到着。テント設営。14時30分、キャンプ場を出発。鉾立峠に向かう。15時15分、鉾立峠着。20分後、立中山山頂に立つ。こんな山あったのかなと思う山だが、標高は1500メートルに近い。しかし周囲に高峰があるので丘のように見える。名前通り、九重連山の真中に立つ山か。

16 時半頃、法華院温泉に到着。

入浴。湯の中で足を揉む。ベランダに 出ると真正面が立中山。いい天気だ。 青い空に山容がくっきり。冷水を浴び て浴室を出ると体がポカポカする。風 呂上りのビールを飲みながらしばし談笑。

キャンプ場に戻れば炊事担当が奮闘中。ビニールシートの上にコンロ、鍋が置かれ、食材が並ぶ。今夜のメニューはしゃぶ鍋。肉は文句の出ないよう1人1パックずつ配布された。豆腐、野菜とキャンプにしては具は豊富。舌鼓を打ちながら話が弾む。手許がしだいに暗くなり、ヘッドライトの灯が点る。空を見上げると、星がポツポツと瞬き始める。四囲に聳える三俣山、平治山、大船山などの山容が黒々と見える。まさに九重の山懐に抱かれている気分。鍋にはモチやうどんが入れられ、満腹となる。最後に歌集の山歌をいくつか合唱して閉会となった。

さて、今からどうするか。これとい う呼びかけもないまま、皆寝支度に掛



大船山をバックに坊ガつるキャンプ場で (参加者)(後列左から)高田孝一 藤井恒介 田中 峻 藤田 傳 浦田和夫 池田 暁彦 馬場基介(中段) 坂本勝喜 高畠拓生 内藤正美 (前列左から) 村上 強

興洋 森本信子 大木康子 原 広美 坂本むつみ 山田武史 伊藤久次郎 計18人 かった様子。我々も田中氏提供のテント を見上げるとさらに星の数は増え、ま

に入る。一緒に寝るのは他に馬場さん。 寝袋で寝るのは何年ぶりか。キャンプし て一夜を明かすのは初めてではないか と思う。他の二人は既に寝息を立てて いる七時半だ。ここまで来てこのまま 寝てしまうのはもったいないという気も する。と思っていると、隣の北九テン トから召集の声がかかった。「二次会 に参加する人は集合!」などと言って いる。「大木康子を呼べ」などという 傳さんの声もする。人々が集り始めた ようだ。にぎやかな話し声が聞こえる。 もう一度星空を見たくもあり、酒を飲 みたくもあり、話をしたくもありで起 き上がった。座る場所があるかなとい う危惧を抱きつつテントの外に出て夜 空を見上げると、先刻より星の数が増 えている。流れ星が見えるのではない かとしばらく目を凝らした。北九テン トに近づくと、案の定、入口まで満員 だ。ポケーと立っているわけにもいか ず、入口にいる女性に声をかけると、 彼女はそれを機に 私はこれで失礼し ます」と腰をあげた。すると他の3、4 人の女性も一斉にテントの外に出てき た。入れ替わりに、「女性陣を追い出し てすみません」と言いながら私が入っ た。私は持参した詩誌を2、3の人に渡 した。原さん、山田さんというベテラン登 山家から私の「山行」の詩が好評を得 たのは嬉しかった。歓談は続いていた が、私は9時過ぎにテントを出た。空 さに満天の星。しかも一つ一つの輝き が大きい。夜露がすごい。テントもぐ っしょり濡れている。

関口

翌朝6時起床。朝食は昨晩のシャブ 鍋にご飯をいれたおじや。うまかった が何しろ量が多い。「全部食べてくだ さいよ。捨てるわけにはいかないんだ から」という原炊事長の言葉に促され、 2、3杯とお代わりし、食べ過ぎた人 もいるようだった。

キャンプ場を7時15分に出発。白 口岳登山口で昨日しなかった自己紹介 を行う。登山開始は7時45分。途中、 アキノキリンソウ・リンドウ・フクオ ウソウなどの花を観賞する。これは関 口氏のご教示。コケモモの実を口に含 むとうまい。生育状況のチェックなど と言いながら高田さんとともに2、3個 を食べた。左、稲星山、右、中岳に分 かれる峠に着いたのが9時20分。そ こで待っていたSLの内藤氏は、先頭 グループは稲星山山頂に向かったと告 げる。我々はトラバースして鳴子山に 向かう。登る人が少ないのか、一人が ようやく通れる幅の登山道は草に埋も れている。ストックで掻き分けながら 行く。道の真中に株があったり、ミヤ マキリシマが左右から張り出していた り、なかなか歩きにくい。下ばかり見 ていると枝に頭をぶつけたり、顔面を 叩かれる。油断できない。山頂が近づ くにつれて岩が増え、傾斜も急になる。

なかなかの難路だ。

鳴子山山頂に10時5分着。そんな に高い感じはしないのだが、標高は 1643メートル。眺望は素晴らしい。 九重の真ん中から四方を見ている感 じ。眼下には坊がつるが見える。それ にしても穏やかな天候だ。風もない。 この山は九重連山の中ではあまり知ら れていない。私も今回初めて知った。 坊がつるにキャンプでもしなければ登 ることもない山なのだろう。関口氏は 学生時代以来 50 年ぶりに登ったとい う。内藤さんも初登頂らしい。価値あ る山に登ったという気がする。10時 30分出発。ルートを引き返し、白口 岳に向かう。

白口岳山頂に11時15分到達。こ の山も今回の山行で初めて知った山。 標高は1720メートル。結構高いでは ないか。眺望は鳴子山と同じく素晴ら しい。時々山峡からガスが湧いてくる。 雲海の上に根子岳、祖母・傾山系、由 布岳双耳峰が見える。九重とともに九 州を代表する山々だ。それぞれの山か らお互いが見えるのだ。

山頂を11時半に出発。一路下りに 入る。鉾立峠までの下りは道というよ り雨が激しく降れば濁流が流れ落ちる 水路で、急勾配。ちょっと膝にきた。 傳さんのグループが後にいたので最後 尾とはならなかったが、先頭グループ とはかなり開いた。鉾立峠に既に着い て待っている10数名の注視を浴びな がら一人下りていくのはなかなかのプ レッシャー。「やっと着いた、やっと着い た」と田中さんが大声で歓迎してくれた。

キャンプ場着1時5分。食事とテン ト撤収作業。2時15分キャンプ場出 発。内藤さんらの先頭グループはショ ートカットを採ったようだが、我々鈍 行組は風倒木を避けて専ら大船林道を 下った。ゴールしたのが4時45分。 重い荷物を担いで2時間半の林道歩き は今回のビッグイベントの一つ。この 日は朝から正味8時間は歩いた。私と しては初めての経験。八ヶ岳に向けて よい練習になりました。ちなみに田中 さんの万歩計によれば初日は8820 歩、二日目は17065歩。(但し、田中 氏は初日は立中山に登らず、二日目は 鳴子山の代りに稲星山に登ったとのこ と。)お疲れでした。

10月 月例山行報告

八ヶ岳連峰山行記「縦走と黄葉を訪ねて」

No.14048 高城 季美子



硫黄岳から赤岩の頭を下山中の我がパーティ(ビデオから)

鋸状の岩峰の連なる八ヶ岳を遙か遠 方に眺めるたびに、機会があれば一度 登ってみたいと思っていたところ、当 支部で八ヶ岳山行があると知り、早速 申し込みをした。

日程は10月12日より3泊4日。参加者は女性7名、男性7名の計14名。往路はフェリーを利用し、船中一泊して思いっきり前夜祭、翌13日は4時間の行程で行者小屋泊り、14日は赤岳、横岳、硫黄岳を経て、赤岳鉱泉へ下り、ここの温泉で汗を流した後に美味しいビールで乾杯。帰路は新幹線利用で最後のお楽しみというストーリーは行程表を戴いたときからなんとなく読めていた。

フェリーは平日という事もあり、「日本山岳会北九州支部様」と指定された 2等船室は、幸か不幸か貸切状態。前 夜祭の様子はご想像におまかせすると して、消灯時間があって良かったとい うのが私の感想である。

山行1日目は5時20分大阪南港着、ポートタウン線、地下鉄線をスムーズに乗り継いで1時間程で新大阪着。このルートは今後の山行に使えそうだ。

後々数えてみると、フェリーを降り てからJR茅野駅に着くまで実に6回 の乗り継ぎをしたことになるが、さほ どの労苦は感じなかった。

中央線しなのが鳥居峠を越えると、 太平洋へと注ぐ木曽川がこれまでとは 逆の方向に流れを変えて、奈良井川〜 犀川〜信濃川となって日本海に注ぐと いう分水嶺を関口S. Lの説明のおかげ でこの目で確認できたことも良かった。 茅野駅からは登山口の美濃戸口まではタクシーで移動。ここで塩尻駅にて調達した名物の釜飯などで腹ごしらえをし、空の容器はここに預けて、帰りに回収する事にする。

12時、いよいよ本日の宿、行者小屋目指して出発。林道を過ぎると、美濃戸山荘からは先はシラビソやダケカンバ、唐松などの深い樹林帯を南沢に沿って歩くことになる。行者小屋まで、標高差600メートルを約3時間程の登りである。

登りよりも下りを得手とする下山家? の私には暑くて少し辛いコースだったが、時折足を止めるほどのきれいな黄葉も見られた。このあたりは赤色が少なくて、ダケカンバや唐松の黄葉が目にやさしい。

突如河原が開けた前方に横岳、右手 に中岳、阿弥陀岳、さらに進むと赤岳 が間近にせまり、今夜の宿、行者小屋 に到着。山小屋らしい雰囲気を持った、 心地良い小屋だった。

2日目、晴。午前6時40分出発。いよいよ主峰赤岳へ。事前に関口S. Lより渡されていた赤岳山頂からの展望図に期待が膨らむ。文三郎道の急な長い鉄製の階段を喘ぎ喘ぎ登りきると赤岳と中岳の鞍部に取り付く。

岩峰の多い斜面を攀じ登って赤岳山頂へ。遠望は少し霞んでいたものの、北アルプスの槍穂高や南アルプスの北岳、間岳、富士山、瑞墻山、金峰山などの著名な山々がくっきりと頭を覗かせていた。澄んでいれば、360°に40近くもの日本百名山が遠望できるとか。

ここから横岳まではカニの横バイなどもある岩峰のアップダウンが続き、 慎重に足を進める。横岳で昼食を取ったあと、硫黄岳山荘を経て、緩やかな登りをケルンに導かれて歩くと硫黄岳山頂へ。このあたりは、夏場はコマクサの群生やお花畑も楽しめそうだ。

八ヶ岳の山小屋はどこも水洗でバイオトイレが完備されていると聞いていたが、硫黄岳山荘にはウォシュレットも備えられていて驚く。

硫黄岳は、その昔富士山と背比べをして勝ったがゆえに富士山に蹴飛ばされたという伝説もあると聞く。そのスケールの大きな山容に感動。さらに先の赤石の頭より、今日歩いてきた横岳から続く尾根を目でたどり、また感動。これから先は赤岳鉱泉まで樹林帯の道をジグザグとひたすら下るのみ。

15時40分、赤岳鉱泉に到着。予定ど おり、休憩を入れて実に9時間の行程で あったが、さほど疲れは感じなかった。

赤岳鉱泉は温泉良し、食事も良しの 快適な山小屋だった。特に、ここのテ ラスからの展望はすばらしく、夕焼け で赤茶色に染まった横岳とそれを見守 るように鎮座する大同心は、静けさと 威厳に満ち、いつまで見ていても飽き ることがなかった。夜更けには満天の 星空も見ることが出来た。

最終日、山荘を7時に出発して緩やかな北沢に沿って下る。美濃戸口で預けたゴミ等を回収し、茅野駅から中央線、新幹線と乗り継いでそれぞれ家路へ。車中では、男性方の最後のお楽しみが例によって延々と続いた。

今回の山行は出発前に各地で山岳遭 難事故が相次いだ為、防寒対策を万全 に準備し緊張して臨んだが、好天に恵 まれ、幸運にもそんな心配も無用の快 適な山行をする事ができた。

最後に、この山行を計画し、お世話をして下さったC. Lの山田さん、S. L の関口さん、ビデオ片手に前に後ろに奔走された伊藤さん、本当にご苦労様でした。そして、山でのマナーをしっかりと教えて下さった諸先輩の皆様方へ心より感謝申し上げます。

(参加者 14 人) 山田 武史(CL) 関口 興洋(SL) 原 広美 伊藤久次郎 浜松 礼子 浦田 和夫

高島 拓生横山 洋子室津 健次高城季美子坂本 勝喜坂本むつみ坂本千佐子森本 信子

山行記

祖母山(1756.4m) 薪刈り登山(ボランティア)

No.14081 塩 屋 薫

日 程 11月3日(金)~5日(日) (2泊3日)

登山先 宮崎県「祖母山」

目 的 九合目小屋の薪苅り(2日間) 参加者 CL中村 矢野 塩屋 黒木 持原 加藤 計6人

11月3日、下関6:20発。北谷登山口12:10着。食材、酒など分担、荷揚げ登山開始12:43。千間平~三県境~国見峠~九合目小屋15:30着。到着後早速薪刈り実施。風倒木、古い小屋廃材を集めて、チェンソー、鋸で切断して小屋に搬入した。

この日は三秀台でウェストン祭があったのと紅葉狩りのために登山者多数 (ツアー多数)登っていた。 又日本山岳会の九州各支部と北九 州支部の方とは風穴を下られたので 出会えなかった。当日は30数人の宿 泊で賑わった。我々は管理人部屋で 自炊、キムチ鍋でビールと焼酎で乾 杯した。

11月4日、終日薪刈りと薪切りを して小屋へ運び入れた。この冬一杯 の使用量が出来たと思います。ご苦 労様でした。スエーデン製のストー ブで一晩中焚いて暖かく過ごせた。 今夜は傾山からの縦走者4組宿泊。

11月5日、天候快晴、気温1度。 6:50素晴らしい御来光が見られ、 早出組2組が傾山へ向かった。小屋 7:48出る。祖母山頂8:00着。8:10



下り、小屋を8:25出発。北谷登山口 に向かう。加藤新道を下り、紅葉を見 て9:34下山した。

途中三秀台のウェストン碑を見て、高 森の月廻り温泉で3日分の汗を流す。

牧ノ戸経由、九重の日本一の大吊り 橋に向かったが、橋見学の車で大渋滞。 四季彩ロードに迂回して下関18:30着。

久方ぶりに祖母山に登り3日間の自 炊、薪刈りと大変楽しく過ごせました。 何と言ってもソーラ発電と水がポンプ アップ出来るのとバイオトイレで快適 に過ごせました。

サロンからの報告

No.13992 山田 武史

小倉北区内の居酒屋「コール天」 にて、毎月第4水曜日に開催されて いるサロンに10月25日、久し振 りに出席しました。

「コール天」には、ちょっと早めに着いたが、既に秦野前支部長が来られており秦野前支部長より、近況等をお聴きし、雑談を交わしている間にも、続々と人は集まり、当日は何と14名(通常は6~7名の由)となり、大盛況。急遽、大部屋への移動となりました。

この会は、飲み放題ゆえ、ビール に始まり、酒、焼酎と進んで行った 会の半ばにて大楠副支部長の、名リ ード、名司会によって、我JAC北 九州支部の、最近の山行活動を報告し合おうとの事になったのでした。 最初に、私に指名あり、順次、報告の輪は、広がったのでした。

- ① 八ヶ岳登山(10月12~15日)
 - イ 山田……全般の行動(14名参加、「晴れ女」に助けられ、 3日間共晴天だった事)
 - ロ 横山……参加者の若手代表とし ての感想(2度目なれど、 今回も良かった)
 - ハ 坂本むつみ……車中での酒の味 わい(酒も、塩尻のワイン もおいしかった)
- ② 全国支部懇談会(10月7~9日) 日向……全般の行動(永平寺で の宿泊、精進料理、座禅)
- ③ 自然保護全国集会(10月21~22日) 高畠……山でのトイレについて

④ 薬用植物技術講習会(10月21~22日) イ 大城戸……皿倉山での、秦野講師(前支部長)の講習会に ついて

口奏野前支部長……平尾台、皿倉山での、2日間(参加者は、予想外に多く240名だった由)の、講習会についていつに無く、高尚な報告で推移し、終宴の時間も迫って来た頃、最後の締めとして酒、そして山も達者な、我JAC北九州支部の長老79歳の藤田傳さんに「若さの秘訣」について、質問が及んだ処、朗々と、「無理をせず、……」云々の下ネタ話のスピーチに一同大爆笑にて、お開きとなりませた。本日の会費は、男性3千円、女性2千円と割安。多いに食べて飲んで、話して笑って、楽しいサロンでした。

以上

◇◇◇報告・お知らせなど◇◇◇

支部長会議の報告

No.13465 大楠益弘

去る12月2日(土) 午後1時から名古屋市で支部長会議が開催されました。大庭支部長は所用のため代わりに私が出席しました。事務連絡、打ち合わせなどを除いて、支部活動に関わりのある項目について報告します。 議題

(1) ブロック別オリエンテーションについて 現存会員の内13,000番から14,000番の会員番号のメン バーの退会が多いので憂慮される。休眠会員の掘り起こし。新入会員研修のために本部から委員を派遣し、ブロック別のオリエンテーションを実施してゆきたい。各支部においても会員入会後のアフターフォローが充分なされるよう要望したい。

(2) 支部化構想について

首都圏(1都6県)には会員が2,700人在住していて、これは全体の43.3%に当たる。この中には入会したが指導してもらえない。情報量が乏しいので活動しにくいなどの声があり、支部化が要請されてきている。

現在栃木支部が結成間近か。千葉、埼玉、多摩地区も 計画中である。その他各支部においては、未結成の県に も働きかけをしてもらいたい。

(3)委員の公募について

委員会組織の硬直化現象が見られるので、4年毎の交 替が望ましい。委員の公募も本部で考慮中であり協力を

お願いしたい。 (4) その他

の発刊となる。

日本山岳会として公益社団法人の定款変更が11月17日 認可された。これにより総会の成立要件も変更となる。 又個人情報保護のため会員名簿は広告を掲載せず5年毎

第8回通常総会のお知らせ(予告) 2007年度

平成19年4月21日 (土) 午後1時30分から 場所 北九州市八幡東区大谷1丁目 大谷会館

山行計画のご案内

3月の山行

(1) 福智山(901m)清掃集中登山

日:3月17日(土)

交 通:マイカー

集合場所と時刻:福智山山頂 正午頃

的:登山道に廃棄されているカン、ビン、ゴミ類の清掃 必携品:昼食、非常食、テルモス、雨具(上下)、ゴム手袋、

10L前後のポリ袋l枚

統括リーダー:伊藤 久次郎

<コースと出発場所・時刻>

参加者は、希望のコースをお選び下さい。

(A班) ほって谷新道コース(鱒渕ダム~ほって谷新道~山頂~ 鈴ケ岩屋~鱒淵ダム)

集 合:鱒淵ダム 9:00AM

リーダー:西村 信子

(B班) 七重の滝コース (鱒淵ダム~七重の滝~山頂~ほって谷 新道~鱒淵ダム)

集 合:鱒淵ダム 8:30AM

リーダー:原 広美

(C班) 上野越コース (上野峡大駐車場~上野越~山頂~上野峡 大駐車場)

合:上野峡大駐車場 9:00 AM

リーダー:伊藤久 次郎

(D班) 上野白糸の滝コース (上野峡大駐車場~山頂~上野峡大 駐車場)

合:上野峡大駐車場 9:00AM

リーダー:太田 満

(E班) 直方内ガ磯コース (内ガ磯福智ダム~なぎの小屋~上 野越え~山頂~荒宿荘小屋~大塔の滝 ~なぎの小屋~福智ダム

合:内ガ磯福智ダム登山口 8:30 AM

リーダー:中岡 邦男

<申し込み先> コース名選定の上、大楠まで

FAX 093-371-4933 TEL 090-3196-8939 <申し込み〆切> 3月 日()まで 以上

(2) 北海道冬山遠征(ニセコ山系)

JAC北九だより (No. 32) で3月の山行「北海道冬山遠征 (十勝 山系)」の案内をしましたが、その後、北海道支部のアドバイスも あり、目的地をニセコ山系に変更し下記の通り提案ありましたの で改めてご案内します。奮ってご参加ください。

山域:ニセコ山系ニセコアンヌプリ(1308.5m)、イワオヌプ リ (1116m)

日程:

3月21日(水)福岡空港〜新千歳空港〜倶知安町ニセコワイス 寶亭留(行動計画の打合せ。装備品の点検。宿泊)

<u>3月22日(木)</u>ホテル~ニセコ国際ひらふスキー場(ゴンドラ、 リフト利用)~終点からスノーシューでニセコアンヌ プリ頂上~五色温泉イワオヌプリ登山口~(約1時間歩 行)~雪洞設営地点(宿泊)

3月23日(金)雪洞~イワオヌプリ登山~(雪上訓練)~下山 ~ニセコワイス寶亭留(宿泊)

3月24日(土) ホテル~小樽~札幌(市内観光) ~市内のホテル(北 海道支部会員との交流、宿泊

3月25日(日)札幌~新千歳空港~福岡空港(解散)

装備:

<個人装備> 冬用ヤッケ (羽毛)、オーバーズボン、フリースな ど防寒衣、手袋(防寒用)、耳を覆う帽子(目出帽)、厚い靴 下、下着着替え、登山靴、オーバーシューズ、50リットル以 上のザック、サブザック、食器(カップ、箸など)、テルモス、キ ャップランプ、サングラス、地図、磁石

<貸与個人装備> スノーシュー、アイゼン、ピッケル、山スキー用 ストック、カラビナ、エイト環、スリング、ウエストロープ、厳冬期 用寝袋、シュラフカバー、エアーマット

<共同装備> GPS、雪洞用スコップ、のこぎり、ツエルト、ザ イル (40 m/10 mm 1 本、20 m/8 mm 1 本)、ATC (確保器) スノーバー、デットマン、ルート旗 ガス、ストーブ、コッフェル、 ローソク、ロールペーパー、新聞紙、4人用テント

食料計画:詳細は省略。参加者に連絡。

参加要件: 10 kgくらいを背負って、山中8時間程度歩行できる体 力のある方なら、冬山経験がなくても十分対応できる。

山行に伴う費用(概算): 車両運行費、ニセコワイス寶亭留(2泊 5食)、ガス(2食使用分)、食材などをふくめ、1人当たり、 22,000円程度(参加人員により変動)

総費用 (概算) : エースJTB(福岡〜新千歳往復航空運賃プラス 札幌ホテル1泊、朝食付きで38,000円、その他の交通費な ど含めて合計65,000円程度

申込先:事務局 関口興洋

(TEL/FAX093-382-6436) 〆切1月26日

サロン ルーム

毎月第4水曜日

1月のサロンは、 24 日 (水)

2月のサロンは、28日(水)



時間 午後6時30分から

場所 小倉北区魚町「コール天」

(魚町銀天街、酒房武蔵より西へ約30m)

費用 3,000円前後(ワリカン制です)

編集後記

○ 明けましておめでとうございます。 年明け早々から、九州5支部懇談 会という、大きな行事が入って参

りました。役員だけでは手も足も足りません。受付や案 内など、お手伝い出来る方はどうか事務局まで連絡下さい。

○ 山の原稿は、事務局(関口事務局長)又は 〒826-0032 田川市西平松11-8 伊藤久次郎宛。 旺/Fax 0947-42-2772

Eメール原稿は

アドレス rw4ux6@bma. biglobe. ne. jp です。 デジカメ写真は、縮小せず添付で送ってください。